



令和6年 7月発行  
中濃県事務所 振興防災課 振興防災係  
家庭教育担当:塚原  
〒501-3756 美濃市生櫛1612-2  
TEL: 0575-33-4011 (内線210)

# 令和6年度 第1回 美濃地区

# 子ども応援会議



## ～子どもの笑顔と安心感を育む居場所づくり・絆づくり～

岐阜県では地域ぐるみで子どもたちを健全に育むため、毎年地区ごとに、学校関係者や青少年関係団体、社会教育団体等の代表者が集まる「子ども応援会議」を開催しています。

今年度第1回的美濃地区の会議は、6月12日(水)に美濃市立中有知小学校で開催されました。当日は、中濃地域の学校関係者や地域の青少年・社会教育の関係者の方々に、同校の授業参観後、家庭教育についての講話や同校の実践発表、中有知小学校児童と地域の方とのタウンミーティングを参観いただきましたのでご紹介します。

### 【家庭教育についての講話】



<講師> 岐阜県 環境生活部 県民生活課  
課長補佐 若森 美恵子 氏

<講演名> 「子どもの居場所をつくる家庭教育」  
～「話そう！語ろう！わが家の約束」  
運動の取組～



<講演内容>

#### 《岐阜県の子どもたちの現状》

- ・小中学生共に、90%以上が「自分は家族に大切にされている」と回答しています。
- ・小中学生ともに、約70%が「自分は価値ある人間だと思う」と回答しています。
- ・中2は小5よりも「不安に感じることはない」と答える割合が低くなっています。

#### 《県民の声より「家庭の教育力を向上させるために」何が必要だと思いますか》

- ・家庭教育に関する親自身の学習
- ・困ったときに相談できる身近な相談相手
- ・地域や職場の家庭教育（子育て）への理解

居場所の数の多い子どもほど、「今の自分が好きだ」「今の生活が充実している」と答える割合が高くなっています。

## 【中有知小学校 実践発表】



実践発表では、中有知小学校の石原隆校長に、同校の運営方針のほか、学校運営協議会や公民館など地域との関わりについて発表いただきました。

公民館行事への積極的な参加や、地域の方に支えられた農業体験、地域学習などを通じ、「児童は、地域の方々とのふれあいの中で、多くを学び感じ取っています。」と、地域の実践活動が大切であることを説明いただきました。

## 【中有知小6年生児童と、美濃市「まごころの会」や地域の方々によるタウンミーティング】



タウンミーティングでは、「インターネットや携帯電話の利用方法」をテーマに、6年生の児童・保護者のほか、関警察署、美濃市「まごころの会」や学校運営協議会の方々にも加わっていただき、DVDの視聴やグループごとの話し合いが行われました。

子どもたちからも、「インターネットは便利だけど、正しく使わないと危険なことも多いことがわかった。」「危険を感じたらすぐに親に相談したい。」など多くの発言がありました。

## 【子ども応援会議に参加された方々の感想】

- ・学校は家庭とも地域ともつながりがもちやすい立場として、両者をつなぐ役割を果たしていると感じました。本校でもクラブ活動や通学の見守りとして地域の力を借りています。学校に関わってもらいやすい投げかけをしていくことで、地域の方の助けや関わりをお願いしていきたいと思いました。子どもたちに関わってくださる方を増やすことで、安心感をもてる子どもが増えていくのだと感じました。（郡上市小学校教諭）
- ・中学校でも「居場所づくり・絆づくり」は、大切なキーワードとしています。生徒を大切に育てるために、係活動や行事を通して学級を盛り上げていくのですが、そればかりでは、疲れてしまう生徒もいます。教室は、「生徒の成長の場であると同時に、安心して過ごせる居場所でもある」ということを、毎日大切にしていきたいと思いました。（関市中学校教諭）

## 【取材を終えて】

中有知小学校の地域の方々や美濃市「まごころの会」の皆さんは、「地域の子どもは学校と地域で育てる」という、子育てに対する当事者意識をもって見えました。

子どもたちは、地域の方々とのふれあいの中で「ふるさとを愛する心」が育まれることをあらためて感じました。



# 郡上市子育ての日

## ～すべての保護者が豊かで朗らかな 子育てができることを願って～

郡上市では、市内の保護者に子育てについて楽しく学んでもらおうと、今年度より「子育ての日」を設定しました。

今回は、6月11日(火)に開催された、年長児の保護者向けの子育て講演会や学習・交流会の様子をご紹介します。

### 【第1部 子育て講演会】

#### <講師>

親野 智可等(おやの ちから)氏 (教育評論家)  
～元教師。漫画「ドラゴン桜」の指南役としても知られる～

#### <講演名> 「入学まであと1年! できること・すべきこと」



#### <講演内容>

【子どもと良好な関係を築くことが、子どもの「自己肯定感」や「他者信頼感」を高める】

- 1 子どもを叱るのではなく「工夫」で乗り越える
  - ・「方法の工夫」・・・子どもが苦手できないことを、できるように工夫する。
  - ・「言葉の工夫」・・・子どもを責めずにほめて、自分に自信がもてるようにする。

\*子どもができない時・・・一緒にやってあげる。できないときは、親がやってあげる。  
その時に否定的な小言を言ったり叱ったりしない。
- 2 叱ることを工夫する姿を子どもに見せる
  - ① 親の愛情を感じて、感謝することができる。
  - ② 何かうまくいかないことがあった時に、工夫することを子どもが学べる。
- 3 ほめるときは、無条件に丸ごとほめる  
例:「〇〇ちゃんのこと、大好き」「宝物だよ」「生まれてきてくれて、ありがとう」  
夜、一緒に眠る前が効果的である。(ゆっくり触れてあげる→幸せホルモンが大量に出る)
- 4 子どもの好きなことを優先し、応援してあげる  
自己決定できる子になる。

## 【第2部 ICT 学習会と子育て交流会】



ICT の学習会では、市教育委員会の職員が講師となり、自身の子育て経験をもとに講演されました。

子どもから機器を無理やりに取り上げたり一方的に制限したりするのではなく、ゲームやタブレット端末の利用ルールを親子で決めて、ICT 機器と上手に付き合っていくことが大切であることを説明されました。



交流会では保護者がグループに分かれて、日頃の子育ての悩みを話し合いました。

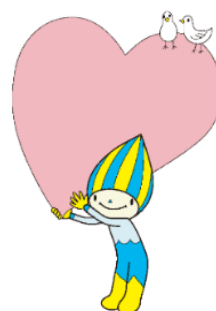
どのグループも、初めて会ったとは思えないほど、始終和やかな雰囲気で行われていました。

## 【参加者の感想】

- 今日から実践しようと思ったことが多くあり、今夜、主人と共有しようと思いました。マイペースな娘の素晴らしいところをたくさん見つけて、伝えて、幸せを味わいたいと思いました。
- 子どもの自己肯定感を高めるために、チャレンジする気持ちや好きな気持ちに全力で応援をして、助けてあげられる親になりたいと思いました。毎日叱ってばかりの日々ですが、叱らない工夫をして子育てを楽しみたいと思います。
- 親の願い=親の欲、何でも1人で出来なくちゃいけないことは無い、など自分の意識を変えることが出来ました。これからは、否定的な言葉をかけず、叱らない工夫を頑張りたいです。そしてたくさん、グュー&チューしていきます！
- 子どもの自己肯定感を上げる、子どものやりたいことをさせるってことをあまりできてなかったな、と気付かされました。いつも怒ってばかりなのですが、「大好きだよ」、「愛しているよ」と、いっぱい伝えていこうと思いました。参加してよかったです。
- 私はグループ交流が苦手なのですが、話しやすい雰囲気では他のお母さんたちと楽しく交流できて、「また今日からがんばろう！」と思うことができました。ありがとうございました。

## 【取材を終えて】

保護者に寄り添った講演内容、保護者同士が気軽にしゃべりできた交流会で、保護者の皆さんが、笑顔で元気に帰っていかれるのが印象的でした。





# 関市 中濃保育園 保育士体験

～お父さん、お母さんが1日先生を体験～

関市の中濃保育園では、園と家庭が手を取り合って子どもたちを健やかに育てるために、保護者が1日先生を体験する家庭教育学級「保育士体験」を令和4年度から行っています。

今回は、今年6月に行われた体験の様子をご紹介します。



## 【活動の願いと工夫】



中濃保育園では、保育に関する保護者の理解が深まることと、受け入れる園の保育の質が向上することを願って、保育士体験を実施しています。

保護者も子どもたちも毎年楽しみにしている行事で、1人でも多くの保護者の方に参加していただけるように6月の1ヶ月間実施しました。

また、保育士体験の写真や感想などを保護者の方々にお知らせし、多くの方に参加いただけるよう工夫しています。

## 【保育士体験の様子】



散歩に出かけた2歳児のクラスに付き添ったママ先生。黄色い横断旗を持って、子どもたちに白線の中を歩くように笑顔で誘導してみえました。子どもたちは、興味のあるものに出会うとつい夢中になってしまうため、優しく声をかけながら一緒に公園まで歩いて行きました。



「パパ先生、一緒に遊ぼう!」「パパ先生、これ、持ってよ〜!」子どもたちは、一緒に遊んでくれる人が大好きです。パパ先生は、あちこちから声がかかって、笑顔で走り回ってみえました。



「はーい、ちゃんと一列で、順番を守ってすべりましようね!」ママ先生が声をかけます。人気のある遊具は、子どもたちでいっぱいです。怪我をしないように、常に遊具のそばに寄り添って声をかけてみえました。

## 【保護者の感想】

- 子どもたちに「ママ先生、こっちに来て～」 「ママ先生、また来てね～」なんて言われて、ギュ～と抱きしめたくまりました。どの子も本当にかわいかったです。子どもたちの笑顔が忘れられません。
- 先生方の子どもたちに対するアンテナはどうしてそんなに高いのだろうと、ただ目の前のことに必死な私を感じました。子どもたちを安心して預けることができるのは、先生方が見守ってくださるおかげです。
- 先生目線で見ること、「持ち物はこうすると用意しやすいのだな」などがわかり、今後の準備に役立てていけそうです。給食もとても美味しくて、参考になりました。
- 給食は一人でも食べさせるのが大変なのに、何人も同時に食べさせている先生方をとても尊敬しました。給食が配膳された後、「今日は何が入っているかな～？」と先生からメニューについての説明があり、素敵だなと思いました。
- 子どもがどんなふうに友だちと接しているのか気になっていたもので、園での様子を見ることができてよかったです。参加したことで自分の子どもが喜んでくれたことも、嬉しかったです。また次回も、ぜひ参加したいと思います。



## 【主催者の感想】

子どもたちは、パパ先生、ママ先生の来園をととても楽しみにしています。

保護者の皆さんが実際に保育の現場を体験されることにより、「我が子の園での姿や、友だちとの関わりの様子を見ることができ、安心しました」という感想を多くいただき、園を知っていただく良い行事になっていることを感じました。

保育士の大変さを実感し労いの言葉を多くいただいたことで、保育士の士気が高まっただけでなく、私たちも日々の保育を見直す良い機会となりました。

朝は緊張した表情だった保護者も、帰る時にはニコニコの笑顔になり、子どもたちの力って本当にすごいなと思います。

## 【取材を終えて】

保育士体験をされた保護者の方々は、子どもたちと真正面から向き合い、翌日筋肉痛になるほどいっぱい体を動かしてみました。

中濃保育園の保育士体験を取材させていただき、改めて、子どもたちは園と保護者の温かい信頼関係の中で育っていくことを実感しました。

